

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3790500023
法人名	医療法人深田記念会
事業所名	グループホームスマイル
所在地	香川県観音寺市黒町750番地 (電話)0875-23-2235

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価決定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月18日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤9人 非常勤7人 常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	RC造り 5階建の1階部分
------	------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	18,000円	
敷金	有()円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	12名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.5歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人深田記念会 松井病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>病院、介護老人保健施設等の関連施設に囲まれたこのグループホームは、施設長の理念・方針が明確で、グループホームの本来の在り方を重視し、認知症の改善、在宅復帰を目指して、職員と一丸となって取り組んでいる。脳リハビリを取り入れており、毎日全員参加の散歩は日常生活動作低下の防止、脳いきいきにつながり利用者が活動的でいきいきとして、落ち着いた雰囲気ですらしている様子が伺えた。今後、さらなる発展を期待したい。</p>

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、初めての評価であり、今後の取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回初めてということで、各ユニットでリーダーを中心に評価の意識・目的を話し合い、理解した上で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者家族、地域代表、市職員、地域包括支援センター、事業所職員による運営推進会議では、事業所からの取り組みの現状や、地域との交流、今後の課題、家族からの報告など、意見交換をしてお互いの関係性を築きながら進んでいる。出された意見や希望については、運営に反映するよう取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>近況については、月に1回利用者、職員ともに手紙を書いて家族に送っている。また、面会時に声をかけ、日々の暮らしぶりや健康状態について報告をし、家族の意見や希望を積極的に聞いて運営に反映している。さらに、家族会を開催して、利用者、家族、職員の交流を深めるなかで意見、苦情、不安などを出しやすい状況づくりに取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人全体で自治会に加入しており、敬老会やボランティア活動に利用者と一緒に参加している。毎日の散歩で地域の住民との出会いも多く、交流が深められている。さらに、施設長、職員は「認知症ケア」の講師として地域へ出向くなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームスマイルの趣旨は、脳リハビリを提供することで在宅復帰を目指している。認知症に対する理解を深め、地域とのかかわりを重視したケアの提供に基づき、「体すこやか、脳いきいき、笑顔さらさら、いつまでも」を理念に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具体化については、「グループホームスマイル ケアの基本」に基づき日々取り組んでいる。利用者のペースに合わせ、ゆっくり話す、ゆっくり歩く、楽しく食事、ゆっくり入浴、安心できる環境を提供するために、目かけ、手かけ、声かけを重視し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティア活動の一環として、毎月行われている海岸の清掃活動に、利用者と共に参加している。また、敬老会、福祉祭りへの参加、いきいきサロンで認知症予防教室への出張講座を実施するなど、多方面にわたって交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての評価であり、地域密着型サービス外部評価の目的、意義を話し合い理解し、ユニット毎にリーダーを中心に自己評価に取り組んでいる。	○	各ユニット毎に職員全員で話し合い、まとめられたとのこと、共有部分はあると考える。自己評価の記入については、それぞれのユニットの特徴もあり、全く同じではなく表現の仕方も違ってくると考えられるので、今後の取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人保健施設開設当初から地域との関係ができており、運営推進会議においては、積極的な意見が出され、質の向上に生かされている。今後、見守りネットワークとの連携を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の行事、ボランティアの参加など常に情報の提供がされている。平成19年度は、敬老会の案内が届き参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回担当職員からの近況報告のメモ、スマイル新聞、利用者本人からの簡単な便りを送っている。家族が面会に来たときに小遣い帳の確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも意見・苦情などを受けられるようにしている。運営推進会議で家族の状況を発表したり、面会も多くその都度意見などを聞くようにしているが、今のところ意見・苦情など出されていない。寄せられた意見・苦情に対しては速やかに検討し対応できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初のため関連施設からの配置換えということもあったが、異動は少ないように十分配慮している。ユニット間の異動については、日々の散歩で馴染みの関係が十分できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成の重要性を十分理解し、法人内外の研修に積極的に参加できるように配慮している。参加できなかった職員については、研修内容をユニット毎に回覧して、学習できる体制を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との相互訪問など交流をもっており、4月には研修を受け入れている。研修前後のレポートを提出するなど、有意義な取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人、家族と面談し、見学、1日体験を実施するなど、安心してサービスが利用できるように配慮している。 また、自宅を訪問して馴染みの関係をつくるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に過ごし、学び支えあう」という関係を築くように取り組んでいる。調理の仕方を教えてもらい、男性職員が料理をしていると、心配して3～4人が寄ってきて手伝ってくれるなど、自然な形で学ぶ、支えあう関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅での生活パターンを知り、思いや意向、希望を把握するように努めている。家庭的雰囲気です少人数の方がいいと判断したが、逆で大勢の方が落ち着いたという例もあり、あくまでも本人本位に対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族も出席してもらって意見交換をし、介護計画が作成されている。モニタリングは毎月行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月1回行われている。入居者に変化が生じた時には、家族に電話連絡をし、見直しを行っている。 脳リハビリに関しては、4か月に1回MMS(痴呆の診断用検査)を実施し、見直しをしている。見当識障害が顕著に出たときは、ホームでの生活の在り方を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連施設との連携を取り、看護師による利用者の健康管理が週3回行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、家族の希望により主治医を決定している。また、必要時には、専門医への受診ができるような体制が整っている。利用者の健康状態や受診状況について、家族と情報の共有ができるように取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の身体状況などに応じて、医療機関・施設などと連携を図り対応しており、利用者が安心・安全、不安なく暮らせる適切な環境はどこかを、職員で話し合い家族と相談している。また、契約時にも家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に個人情報保護法について説明し、理解を得ている。日常のケアのなかでは、特に言葉かけをする時、一人ひとりに口調、態度に気をつけて対応し、職員同士で見直し改善に向けて努力している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のスケジュールは一応決められている。これは生活にメリハリをつけることを重視し、脳リハビリを積極的に取り入れており、利用者がいきいきとした雰囲気である。運動プログラムは、体力にあわせて対応するなど細かい配慮がされており、脳リハビリも楽しくできるように常に工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は当番制にしており、一生懸命に作っている。食事中は楽しい雰囲気、話しをしながら笑顔も見られる。後片付けも食器を下げる人、掃除をする人など強制ではなく自然に行動している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上入浴でき、また希望にも応じ必要な人には毎日入浴支援をしている。利用者個々の状況に応じ職員が見守りをし安全確保に努め、くつろいだ気分で入浴できたり、自立できるよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、趣味などを把握し、書道の得意な人は道具や机を持参しており、関心のある人は一緒に書いて、その作品を掲示している。食事場面では、男性の方が食後箸をもって掃き始めているなど、自分の役割を認識し自然に動いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日や体調不良の日以外は、毎日散歩に全員出ている。散歩コースは個人の体力に応じて、3コース設定し実践している。帰路にコーヒーが飲みたいと喫茶店に寄ったり、買い物でスーパーに寄ったり、また月に2回は外食を計画し実行している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで、インターホンにより対応している。また、ユニット内の天井のライトにより知らせるシステムをとっており、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立会いのもとに、年2回関連施設合同で利用者を含めて、避難訓練が実施されている。特に夜間対応の訓練が実施されている。各種災害に対してのマニュアルも整備されており、関係団体、避難場所も明確にしている。自治会への協力も依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連施設の管理栄養士が献立をつくっており、食材については自分で購入し、足りないものは散歩の時に購入している。献立は立てているが、特に日曜日は家庭的雰囲気を大切にし、利用者が食べたい希望があればその日に対応することもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は明るく、落ち着ける雰囲気で利用者は、思い思いにおしゃべりをして楽しんでいる。家庭菜園では「ソラマメ」「ジャガイモ」が大きくなっており、成育が楽しめると同時に世話ができる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳かベットか希望により対応している。家で使っていた藤椅子、仏壇、家族の写真など、その人らしい居室づくりをしている。		